

栃の木からの手紙

2025年 文月 7月号



- 1日： 半夏生
- 6日： 小暑
- 11日： 満月 旧 6月 17日
- 22日： 大暑
- 25日： 新月 旧閏 6月 1日

夫婦合わせて199歳

みなさんに祝われて、7月1日北見へ移住して行きました。長生きの秘訣は5点。健康である事。〇〇。仕事。趣味がある事。程々の金銭。立川基地所属の航空隊員として南京へ出兵し朝鮮半島で終戦を迎えた

100歳の旦那さんは、「人を殺したら犯罪者なのに、戦争では人を殺す程えらくなる。人間なんていい加減なもんだ」と言う。

【 6月11日 豪雨 】



6月11日、有機JAS畑の除草目的の半培土作業をはじめました。全体の3分の1程終えた夕方に物凄い豪雨。畑が乾いた16日に確認して見ると畝の間は、雨が流れて溝が出来ています。しかも土が硬くなっています。場所によっては、根の生えた苗が流されてしまっています。もう一度半培土作業をやり直し再開しました。機械で半培土しながら手取り除草も行っています。18日に半培土完了。



有機JAS畑の隣の芋畑は本培土の畝に沿って雨水が流れ作物の畝と畝の低い部分を更に削り取り、本培土の高さと同じ位に地面が削られて低くなっている。収穫の時にどうしたものかと考えているが、少しずつ溝を埋めなくてはならないだろうな。

【 6月21日、「土いきかえる（有機認証資材）」を散布 】



18日に半培土が終り、19日から21日の3日間はシルバーの方2名を頼んでデントコーンの畑の草取り作業を行った。

その後に昨年の残渣物の分解や土づくり、「デントコーンへの追肥」を兼ねて「土いきかえる」を3缶54リットル、水4597リットル希釈倍率にして85倍にして有機JAS畑20.9町歩に散布しました。反当り220リットルの散布になります。現在の生育状況を見ると、大きさや葉色のバラツキが大きい状況で少しでも快復させたい気持ちがあります。

【 6月27・28日 本培土 除草 】



今年は、半培土の段階で手取り除草をしていたので昨年のように、本培土の段階で残る大きな草はそれ程無い状況でした。それでも、トラクターを自動操舵にして降りてトラクタの前方で残った草を処理している。トラクタに乗っていて雑草の存在を確認して思い悩んでいるよりこの方がこころも体も健康的で効率的だ。妻の仕事も減るしね。でも、トラクタに轢かれない様に気を付けなくては。この時の葉数は6・7枚、葉色が濃くて大きい所でも9・10枚くらいでした。

7月に入り半夏生を過ぎると急に生育し始めた様に感じます。昨年の本培土の完了は7月10日だったと思いますが、昨年のつもりで作業をしていたら、本培土が出来なくなるどころでした。

今年の天候の危険な所は苗ものが早魘と高温で生育できない事。種で畑から生育したものは根をしっかりと降ろしている為、少々のもではダメにならないが、苗で育てて移植した赤ビーツは、



右の写真の様な見すばらしい状態。葉っぱが枯れてしまっていたり大きく成長出来ないものが多い。早魘の影響がてき面に表れている。赤ビーツも本培土をしようと思っているが土が乾きすぎているので土が湿るのを待っている状態です。

